

みどりの杜俳句会

雪解けの切通し抜け町に入る

佐山ケサ子

雪解けの道をたどりて我が住み家

飯野はつ志

立春や掃除ロボット往復す

田村 好子

枯葉落ち池の小魚浮び来る

今村千鶴子

折紙の絵馬に八十路の厄払ふ

鈴木 啓子

春残し木立を揺する風の音

西 ツル

木に絡む鳶の葉朱し冬日向

木村 弘子

日当りの土濡れてをり露のたう

梅澤きくえ

杉山の樹間の空の春めけり

吉田 愛子

裏山の落葉もち上げ蓬の芽

高橋 ツ子

茅茸の古民家陰や雪残る

関口 侑子

薄氷落葉つつみて煌めきぬ

野口利江子

竹の節割るる響きや雪積る

小宮 勉

坪庭に朝日射し込み路のたう

岡部富美子

杉花粉飛ばや城跡まで行けず

鯨井 和枝

春耕の土巻き上げてトラクター

土屋 厚子

風強し山に沸き立つ杉花粉

初雁 功子

杉山の暗きに椿真つ赤かな

落合 七郎

リハビリの足を止めて福寿草

小林 和幸

根ごと抜く畑菜に混るはこべかな

山田 美子



人権シリーズ

402

『介護を受ける人が穏やかに暮らすために』
健康な状態から、けがや病気で自分自身が思うように体が動かせなくなり、介護が必要な状態になることがあります。

それらの人の生活を支えるために、介護保険制度があります。平成12年度から始まったこの制度は、サービス事業者や各施設も増え、本村でもさまざまなサービスを利用することができるようになりました。そのことでサービスを受ける本人は元より、家族の負担もかなり軽減されています。

介護サービスを受ける本人にとって、その人らしく生活を送るためには、どうすればいいのか。本人とすれば、これまでできていたことを継続したい。自分のことは、できるだけ自分で行い、家族には迷惑をかけたくない。そうしたことを考えながら、介護生活を送っていきます。家族としては、自分自身の仕事のこと、介護にかかる手間等により生活リズムをどう調整するのか、制度利用においてどんなサービスを選択するのか等を考えなければなりません。

本人と家族それぞれの思いや考えをどういうふうに出し合い、家族でできること、介護サービスを利用することを検討しながら、本人の意思に沿った生活を送るためのさまざまな調整が必要となります。

そのことの繰り返しで、少しでも本人らしく日々の生活を送ることができれば、介護される本人の生活が穏やかなものになる気がします。

介護される人の意思に基づいた生活を送らせてあげたい。介護する側の願いでもあります。

社会福祉協議会 常務理事 柴原 正

東秩父村教育委員会開催のお知らせ

日時 4月25日(火) 午後1時30分～
場所 役場2階新会議室
問合せ 教育委員会事務局 ☎82-1230

